ら○まと援交
前編
ぱやんぱやん

はぁ
ああんっ
ああっ
んはぁ♥
ぐちゅっ
んっ
はぁ
ずちゅ

男「上着を脱げ」

らんま「くっ・・・わかったよ」

男「声を殺しても身体は正直に反応しているぞ、らんま」

「グイグイ締め付けてくるぞ」

男「ふふ、どうした、言いたいことがあるなら・・・」

らんま「はぁはぁ・・・うぐッ」

はぁ

ぐッ！

ぁぁっ

ぶルン

たぷんっ

パン

パン

ズチュ♥

ビクッ

ズブッ

男「ちゃんと言え！！」
らんま「あぐっ！やめろっ・・・！！」
男「ふふ・・・お前のオマ〇コが嬉しそうに締め付けているぞ！！」
らんま（オマ〇コがジンジンして・・・だ、ダメだ・・イカされる・・・！！）
ぐっ
ずチュ
こあっ
はぁ
ブルン
ああっ♥
たぷれっ
ずチュ
男「凄い締め付けだぞらんま！出すぞ！お前もイケ！！」
男「オマ〇コでイケぇ！！！」
はぁ
はぁ♥
ずちゅ♥
ずプッ
はぁ
じちゅっ
ずチュ

ぞくっ
おおっ
はぁ
ああんっ♥
ゆさ
ブルン
コサ
プルン
ドビュ
ドプッ！！
はっ♥
男「おぉ・・・らんま！絞り取られるようだ！！」
はぁ
ビクビク
らんま「はあぁ・・・あ・・・♥」
一か月前・・・

早乙女らんま
父、早乙女玄馬と母、のどかとの嫡子、早乙女家の長男であり、無差別格闘早乙女流二代目継承者である。

現在は天道家に居候し、水をかぶると女に、お湯をかぶると男に変身する難儀な体質を持つ。

父親の借金返済のため、キャバクラでアルバイトしているようだ。

男「アルバイトは禁止されていることは分かっているな」

男「しかもこんないかがわしいバイトなら確実に停学、下手すれば退学だ」

らんま（折角見つけた高給バイトバレないように注意してたのに・・）

男「しかし、こんなことを言うために、お前を呼びだしたわけじゃないぞ」

教師
伊ノ脇リョウタロウ

伊ノ脇「俺もお前を助けてやりたいと思っている」

「一教師としてな・・・」

伊ノ脇「なぁにそんな難しいことじゃない。俺のためにちょっと協力してほしいことがあるんだ」

らんま「わ、分かりました。その代わり退学とバイトの件はお願いします。」

伊ノ脇「もちろん、それなりの見返りはもらうがな・・・」

らんま「見返りって・・何をすれば・・・」

伊ノ脇「お前さえ良ければこの件を白紙にしてやってもいいぞ」

今思えば、この選択が間違えだった

らんま「ぬ、脱ぎました・・・」

カアッ

ブルン

伊ノ脇「ククッ・・・イイ身体してるなぁ」

伊ノ脇「俺の思ったとおりだな・・・！」

伊ノ脇「ちゃんと、こっちを向けバイトのことは秘密にしといてやる」

らんま「クッ・・・！」

たぷんっ

らんま（まさか、こんな事をさせられるとは・・・）

らんま（これでチャラなら安いものだそう思って従った・・・）

ムチィ

らんま（伊ノ脇は俺の裸を録画したいと言ってきた）

伊ノ脇「ふふ・・素晴らしい写真が撮れたぞ」

伊ノ脇「ほら、受け取れ」

らんま「えっ!?」

パサッ

らんま「受け取りたくなかったが、強制的に渡された」

らんま「見返りを求めてくる癖に、なぜ、お金を渡してくるんだ？この時は理解出来ずにいた・・・」

次の日

らんま「えっ!今日も!?」

伊ノ脇「そうだ。誰が一度だけと言った？それなりの見返りは貰うと言ったはずだ」

らんま「クッ・わかりました」

らんま「俺は気付いた。コイツの悪趣味に付き合わされていくのだと」

らんま「様々な格好をさせ、伊ノ脇はいやらしい顔でシャッターをきる」

らんま「そしてその都度お金を渡してくる・・・」

らんま「そのうち、アイツも飽きるだろう、俺はそう思っていた」

らんま「しかし・・・」

ビクッ

むにゅ

ぞわ

らんま「ひっ!?」

伊ノ脇「それにしても、らんまはイイ身体してるなぁ・・・」

ぞぞっ

らんま「や、やめろ!気持ち悪い!!」

伊ノ脇「おいおい、立場分かっているのか？」

らんま「いい加減にしろ！」

伊ノ脇「まぁ、落ち着け・・・バイト代を2倍、いや、3倍にしてやろう」

「お金が必要だろう？ん？」

らんま「く・・・！」

はぁ

はぁー

ビクッ

コリコリ

クリュ

らんま「伊ノ脇に丸め込まれたというのが正しいだろう・・・俺は従ってしまった」

らんま「約束通り、伊ノ脇は多くの金を俺に渡してきた」

らんま「そしてそれは悔しいが家計の助けになった」

あっ

はあっ

はぁ

伊ノ脇「ククッいい揉みごこちだ」

伊ノ脇「この巨乳を前から揉んでみたいと思っていたんだ」

らんま「くっ、気持ち悪っ！」

ビク

むにゅ

ムニュ

らんま「俺は割りきって耐えることにした・・・」

伊ノ脇「こらこら、暴れるな」

ちゅぱ♥ちゅぱ

らんま「み、耳を舐めるな！気持ち悪いんだよ！！」

ビクッ

あ・・・ッ

らんま「な、なんだ・・・！？か、身体が・・・」

ビクッ

ぐらっ

らんま「あ・・ッうぁあ！？」

伊ノ脇「クク・・・らんま・・・どうやら相当気持ちいいんだな」「女のような声が漏れているぞ」

ビクッ

んはぁ♥

らんま「やッやめ・・・」

伊ノ脇「フフ・・・息が荒くなってきたぞ？イキそうなんだろ？」

らんま「イヤだ！嫌だ！！男の手で・・・しかも、こんな奴にイカされるなんて！！」

伊ノ脇「ほらイケ！イッちまえ！！」

らんま「ンんーーーーーーーー！！い、イクぅぅーーーーーッ！！」

伊ノ脇「うははは！こんなに派手にイクとはな！今後が楽しみだ！」

らんま「う、ウソだ・・・なんで、こんなのが気持ちいいんだ・・・！？こんな快感、今まで経験したことがない」

ビク

グチュ

ズチュ

ズチュ

ズチュ♥

らんま「抜け目ないことに、伊ノ脇は俺の痴態をしっかり記録していた・・・」
らんま「ま、また触るのか・・・」
らんま「逆らえばどうなるか・・・俺は以前にも増して、伊ノ脇に身体を弄ばれるようになっていった」
伊ノ脇「随分反応が良くなってきたなぁw」
らんま「認めたくないが伊ノ脇のねちっこい責めがゆっくりと確実に俺の身体を変化させ、いつしか快感へと変わっていった」
らんま「も、もうやめ・・・イクッ♥♥」
んッ♥
はぁ♥
はぁ
ゾクッ
ゾクッ
んはぁ♥
ビクン
ちゅぷっ
ちゅぽっ

はぁー
ハッ
伊ノ脇「さて・・そろそろいいだろう・・・」
らんま「な、なにが・・?」
はぁー
ピクッ
伊ノ脇「クク・・コイツをぶち込むためのな」
ドオオン
ビキッ
らんま「お、おい・・・じょ、冗談だろ!?」
ビキッ
らんま「冗談だろ!」
らんま「こんなこともうやめろ!や、やめろー!!!」
伊ノ脇「えぇい、黙れ!今さら、お前に拒否ができると思うのか!?」
ぐっ!
ぞわっ
伊ノ脇「お前の痴態を学校インターネットにばら撒いてやろうか?」
伊ノ脇「バイトのことだけじゃない!」
ぞわ
ぞぞっ
ぐっ
らんま「くっ!?」

伊ノ脇「フフ…そうだ
大人しくしてろ」

伊ノ脇「心配するな
すぐに気持ち良くしてやる」

ビク

ズ

ぬりゅ

らんま「あぁ・・オマ〇コにチ〇ポ来たっ！
逃げたいのに力が抜けて・・
やめろっ！入れるな！やめっ！！」

ズブッッッ!!

らんま「ほ、本当に挿入してきたぁ！？」

ビクッ

はぁ

ぐッ！

ビクッ

はぁ♥

らんま「あぁぁぁ！
こっ、これぇ！何だよぉぉ！！」

伊ノ脇「くほぉ・・・！キツく締まってるぞぉ・・・！」

らんま「ひっ！やめっ・・・ッ」

らんま「く、苦しい・・・！俺のアソコが・・・拡がってる・・・！」

伊ノ脇「ククッ・・・なんだ？らんま、お前感じているのか？」

伊ノ脇「らんま、お前とんだビッチだなぁ！！」

らんま「だけど・・・何だ！この感覚！！じわじわした感じが広がって・・・だ、ダメだ！声が漏れちゃう！？」

らんま「チ、チ○ポの形分かるぅッは、入って・・・動いてるぅ」

らんま「な、なんでだよぉ！！こ、これ、伊ノ脇のチ○ポが・・・き、気持ちいい・・・気持ちイイ！！」

ビクッ
はぁ
はぁー
はぁ
ブルン
あッ
ブルン
はぁッ
ズッ
ヌルッ
ぐちゅっ
ヌプッ
ズッ
ズチュ

伊ノ脇「お前の身体を犯す快感！たまらんなぁ！！」

らんま「何だよこれぇ！えぐって来てるぅ！！」

らんま「そ、そんな激しくされたらッ！！」

伊ノ脇「そろそろ、射精そうだ！オマ〇コでしっかり味わえよ！！」

伊ノ脇「俺の精液の味、この身体に覚えさせてやるぞ！！」

らんま「あぁぁあっ！む、無理ッ！これ無理！！や、やめっ・・・ピストン無理いいい！！」

らんま「は、反則だろこんなのぉ！こんなの続けられたら憶えちまうッ！俺の身体、伊ノ脇に仕込まれちまう！！」

ズーン
はぁ
こあっ
ゾクッ
ブルン
たぷんっ
ヌプッ
ヌブッ
ズチュ
びくっ
ズプッ
ジュプッ
ぐちゅっ
ズチュ
ずちゅ
ずりゅッ

伊ノ脇「ぐおおッ
中に射精するぞッ！！」

らんま「嫌だっ！ダメだ！
ザーメン出すな！！」

らんま「ザーメンが来る！
ザーメン来てー♥」

伊ノ脇「ううっ！
搾り取られるようだ！！」

ビクッ

ドクッ

ビュルッ

ずちゅ

ビュル

ドクッ

ドクッ

ドクッ

ドプッ

ドプッ

ああっ

らんま「来るッ
精液来るうッ♥♥♥」

らんま「きたあぁぁぁぁぁぁぁッ♥
あッ♥　あああああ♥♥」

伊ノ脇「そんなに
オマ○コが気持ち良かったのか？
らんまはスケベだな！！」

伊ノ脇「ふうぅ・・・
年甲斐もなくたっぷり射精してしまったわい」
らんま「子宮が・・・
あ、熱い♥♥」
らんま「お、俺のオマ〇コに
染み込んできて♥
・・・もう
真っ白になるぅ♥♥」
伊ノ脇「しかし、俺とのセックスで
イキまくとはなぁ・・・」
「おまけにオマ〇コの締まりも良いし、
らんまは極上のセフレだな
フフフ・・・!」
らんま「はあぁ♥
膣内射精・・・♥♥」
ずるぅ
ぬぽ…っ
ジュッ
ビクッ
はぁ
びくん
びくっ
ドクッ
ドクッ
ぐちゅっ
ドプ